

国内最大のコンテナ専用船「さがみ」が八戸港に初入港！

八戸港湾・空港整備事務所

八戸港と京浜港を結ぶ国際フィーダー航路に、井本商運株式会社の新造船「さがみ」が就航し、12月3日(火)に八戸港へ初入港しました。入港を祝して、八太郎2号ふ頭で入港セレモニーが開催され、関係者が新造船の就航を祝いました。八戸港国際物流拠点化推進協議会会長の小林市長は「新造船の導入は地域経済の発展に繋がる。大変ありがたい。」と挨拶を述べられました。

新造船「さがみ」は、京浜港～東北・苫小牧を結ぶ航路に就航し、コンテナ積載数は404本※と、内航コンテナ船としては国内最大となっております。また、今後の物流ニーズに対応するため、甲板上に45フィート型のコンテナが積載可能です。※20フィート換算

これまで就航していた船舶では積載能力が不足し同じ航路で2隻を運航させることもあったそうですが、「さがみ」は従来型の1.6倍の輸送能力を持ち、物流の効率化もはかられています。



▲入港セレモニーでの記念撮影



▲2号ふ頭に接岸中の「さがみ」（船名の「さがみ」とは、川の名前（相模川）にちなんで名付けられたそうです。）



▲ガントリークレーン新1号機

また、八太郎2号ふ頭では先月4日、ガントリークレーンの新1号機が設置されました。旧1号機にはなかったブレーキ機能を搭載するなど、荷役作業時の安全性を高めた設計になっているそうです。来年の1月から本格稼働の予定となっており、新造船「さがみ」就航とともに八戸港のますますの利用促進につながることを期待されます。

